

# 天理市埋蔵文化財調査概報

乙木遺跡・檜垣遺跡

1989

天理市教育委員会

## 序 文

本市は、豊かな自然と、数多くの文化遺産にめぐまれた土地であります。年々増加する埋蔵文化財の発掘調査は、私達に歴史を解き明かす手振りを与え、また郷上の歴史を語るうえで貴重な資料を提供してくれます。この誇るべき郷上の文化遺産を積極的に保存・活用してゆくのが私たちに課せられた使命と考えております。

本書は、昭和63年度に、国庫補助事業として実施しました発掘調査の概要です。多くの方々にご活用いただければ幸いに存じます。

最後に調査の実施にあたり、ご協力いただいた関係者各位に深く感謝いたします。

平成元年3月

天理市教育委員会

教育長 上司 幸男

## 例 言

1. 本概報は、天理市教育委員会が昭和63年度に国庫補助を受けて調査を実施した発掘調査の概要である。
2. 国庫補助調査の内、乙木遺跡、檜垣遺跡について本概要に掲載し、赤土山古墳範囲確認調査に関しては、別途報告書を作成した。
3. 調査は、天理市教育委員会が行い、乙木遺跡は泉 武が、檜垣遺跡は松本洋明が担当した。
4. 本概要の執筆は調査担当者が分担し、編集は松本が行った。

天理市

図 1



図1 調査遺跡位置図 1. 乙木遺跡 2. 檜垣遺跡

# 1 乙木 遺 跡

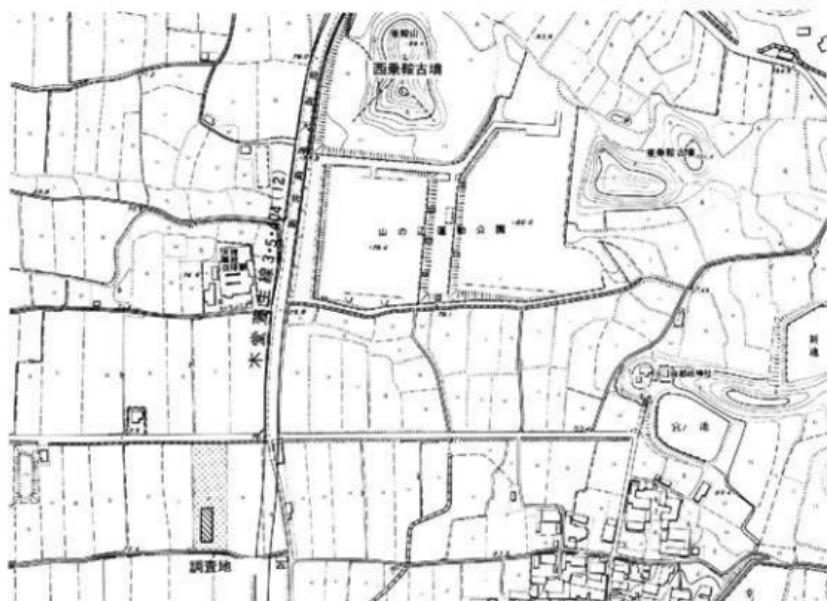


図2 乙木遺跡調査地 (S - scale)

## 1.はじめに

当該遺跡は、県遺跡地図11B-9にあたり、北約300mの地点には西乘鞍古墳をはじめとする柏之内古墳群が所在する。また東には古社である夜都岐神社があり、調査地に隣接して参道が通っている。

調査は遺跡地内の水田が個人住宅用に供するために手得され、遺跡の発掘届が提出された。敷地は東西30m、南北100mの細長い用地であるため、南側に東西6.5m、南北25mの調査トレンチを設定し、昭和63年7月5日に開始し、同年7月12日に終了した。

## 2. 調査の概要

調査前は遺物散布地として遺跡地図に掲載されている遺跡であるが、調査の結果水田表土下約50mのところに茶褐色粘質土層があり、この中に土器破片を含む包含層が形成されていた。そして約70cmで黄灰色粘質土を基盤とする造構面を検出した。

造構は直径約30cm、深さ35cmの土坑と6条の素掘溝である。素掘溝はほとんど遺物を含んでおらず時期の判断は困難である。

出土した遺物はすべて土器包含層からのものであり、古墳時代中期ごろの土師器を中心であった。

## 2 檜垣遺跡

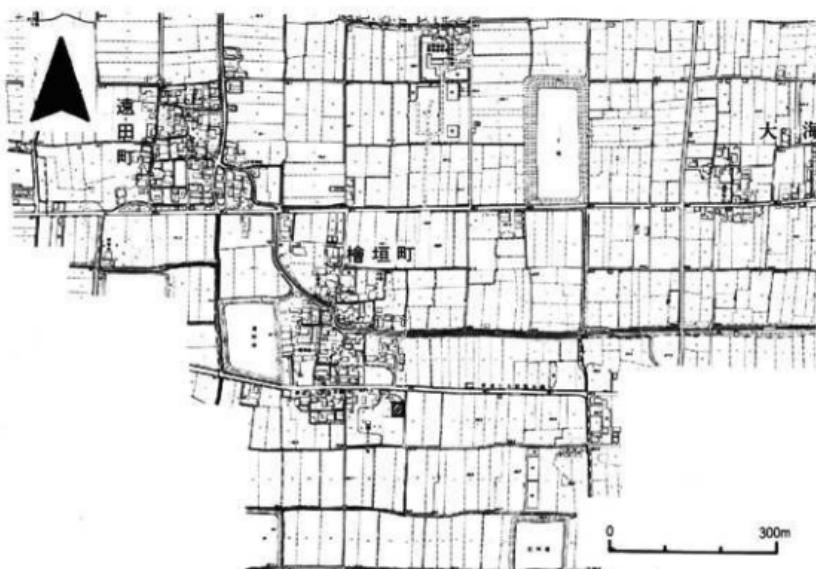


図3 調査地点位置図(S 1/10000) 斜線部が調査地点

### 1. 調査の動機

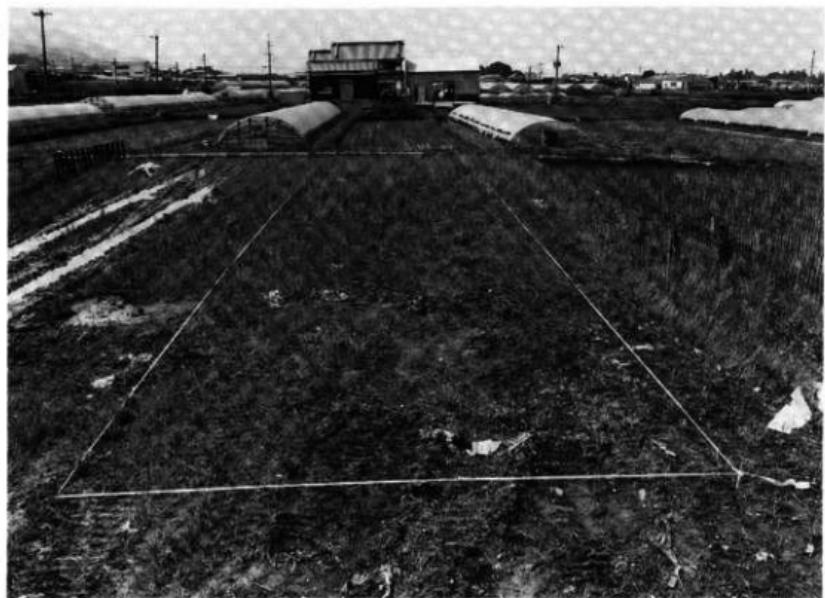
天理市の南西部に檜垣町がある。同地点は、桜井市と田原本町との境界に接している。檜垣町にある三十八神社の境内近くで以前弥生時代後期の土器が出土した例が知られている。よって檜垣町一帯が遺跡である可能性が強かった。

今回の発掘調査は檜垣町の三十八神社東側の隣接地において、個人用住宅の建設工事がおこなわれることになり、事前に発掘調査を実施した。調査は、昭和63年7月12日～昭和63年8月10日までおこなった。

### 2. 調査結果

調査対象地の西端に長さ18m、幅6mの調査区を設定した。表土から約50～60cm掘り下げて暗茶褐色土が厚さ40cm程にわたって堆積しており、弥生時代後期や古墳時代の土器片がわずかに出土した。遺構は調査区の中央部と北端で溝を検出した。溝から出土した遺物がないため溝の時代は確認できなかったが条里制施行以前の溝である。また表土より約1.6m掘り下げた黒色粘土層中よりサスカイト製の縦形石匙が出土した。

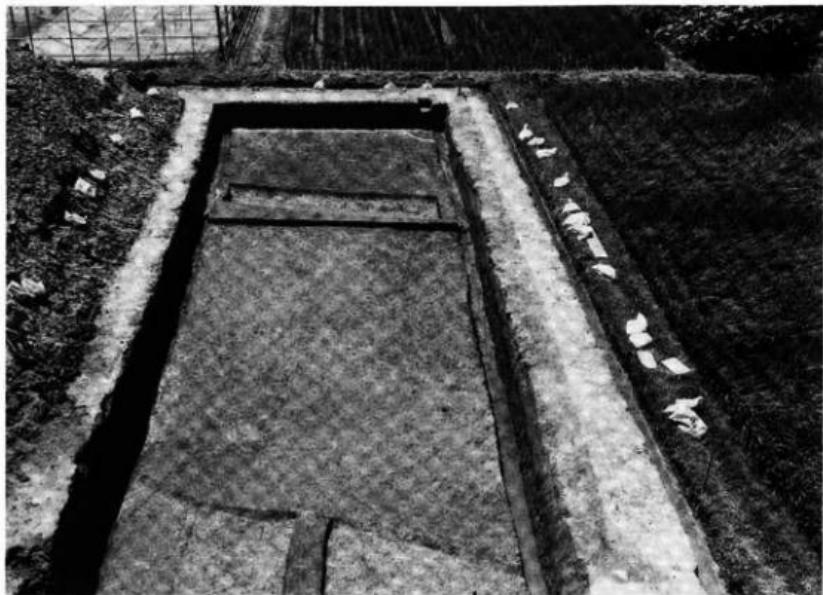
今回の調査で遺構が少ない所にあることがわかり、檜垣遺跡の中心が神社の南側から西側一帯にある可能性が強くなった。



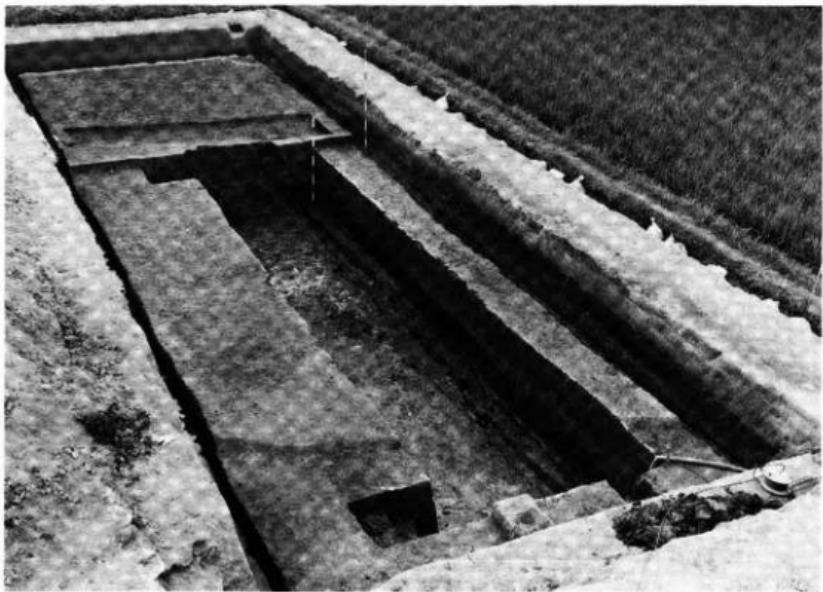
調査前状況



遺構検出状況



調査区全景(北方から)



調査区全景(北方から)